

# 魔法のプロジェクト FY23 活動報告書

報告者氏名:竹尾浩輔

所属:熊本市立碩台小学校

記録日:2024年 2月20日

キーワード:「聞く力」を伸ばすための工夫、「まとめる力」を伸ばすため工夫

## 【対象児の情報】

・学年 2 年生 (A 児)、6 年生 (B 児)

・障害と困難の内容

漢字の読み書きに苦手さを感じている。(2 人に共通)

学習などで伝える場面が少なく、相手にどう伝えたらいいか迷うことがある。(2 人に共通)

## 【活動目的】

・当初のねらい

対象児童は 2 人とも国語への苦手意識をもっている。学習で様々な取り組みを行い、少しでも自信をもって学校生活を送れるようになってほしい。

国語科 (6 年)

国語科の「話す・聞く」領域をさらに伸ばしていくために、毎日 10～15 分程度「聞き取り」の時間を設定して聞き取る力を高めていく。毎日続けるようにして少しずつ国語への自信をつけていく。

国語科×生活科 (2 年)

・2 年生は、生活科の町たんけんが地域の商店街を散策して自分の身近な商店街を知ることができた。気になったお店を決め、聞きたいことを考え、実際にインタビューを行う。生活科で町たんけんをして国語科でさらに深めていく。

・実施期間

令和 5 年 5 月～令和 6 年 2 月

・実施者

竹尾浩輔

・実施者と対象児の関係

担任とその児童

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

2年生

- ・自分の伝えたいことはあるが、自分だけが理解できる表現で伝えようとする。伝えたいことが相手に伝わりにくい。
- ・自分の話したい時や気になることがあると何度も質問を繰り返すことがある。

6年生

- ・タイピングが得意で、動画も作ることができる。
- ・国語の「話す・聞く」の領域で十分に力を発揮する事ができない。一斉指導や人数の多い場面で話の内容を聞き取ることが難しい。
- ・指示を自分なりの解釈で誤変換することがある。指示をどう言われたか、などを他の人に伝えることに課題がある。

・活動の具体的内容

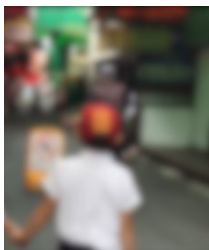
2年生

活用アプリ



ロイロノート・スクール

- ・1学期に生活科で町たんけんを行い、校区の商店街を散策した。どんなお店があるのか、気になるお店はどこかを決めるために、再度散策に行き確認をおこなった。A児の気になるお店が見つかったので、そのお店についてどんなことを聞くかをまとめることにした。
- ・国語科 東京書籍 2年上「外国の小学校について聞こう」の単元で、聞きたいことをおとさず聞く学習を行った。
- ・「外国の小学校について聞こう」で学習したことをもとに、気になるお店のインタビューを行うことにした。



複数の児童と一緒に商店街の散策に行き、気になる店を探している場面

- ・5つの質問を考えてお店にインタビューに行った。
- ・1つ目の質問をして答えてもらっている途中に、2つ目の質問に重なる部分があった。そこでA児は、「これはさっき聞いたから次に行こう」と2つ目の質問はせずに3つ目の質問をすることにした。国語で学習した「聞きたいことをおとさず聞く」をしっかりと生かすことができている。聞きたいことを整理しながら聞くことができていた。

6年生

活用アプリ



ロイロノート・スクール

活用サイト

「NEWS WEB EASY-NHK ニュース」

<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/> 最終アクセス 2024/2/29

- ・国語の授業の冒頭で、ロイロノートを使って、ニュースを聞く時間を設定する。短い内容を聞き取り、要約して短くまとめるようにした。活用したニュースは「NEWS WEB EASY-NHK ニュース」で、ゆっくりと聞き取りやすい内容のものを選んでメモを取るようにした。



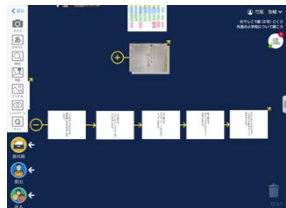
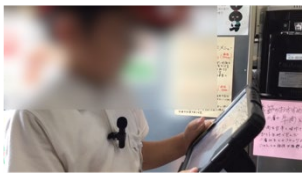
- ・実態把握として4月にニュースを聞いてメモをとると、聞き取ったことをそのままタブレットに入力していた。情報を整理する必要があることを確認し、どうしたら整理できるかを一緒に考えた。箇条書きにすると整理できることを伝え、次から箇条書きでメモを意識してするようにした。

4月19日



- ・日本のアニメ 一番の円売り
- ・ちやうどかつては収入146億円
- ・日本でもなくなった
- ・459万人が見ている
- ・実業家
- ・中国の収入146億円
- ・日本のアニメ映画で一番多かった
- ・韓国で毎月から始まった
- ・日本で一番多くのお客さんが来ている
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

4月20日木



左) インタビューをしている A 児  
右) 5つの質問

・商店街でのインタビューは1つのお店だけになり、その後はインタビューをすることはできなかった。しかし、学習したことをインタビューで生かし、話の内容も把握していたことは十分な成果と言える。

一つめのしつもんです。何年前におみせはできましたか。	二つ目です。いつこかいしょうてんがいにきましたか。	三つ目です。どうやって、ごはんをつくっていますか。	四つ目です。なんしゆるいのメニューがありますか。	さいこのしつもんです。いちばん人気のメニューはなんですか。
----------------------------	---------------------------	---------------------------	--------------------------	-------------------------------

・翌日のメモは箇条書きになっているが、B児がまだ内容理解までには至っていなかった。メモを取るための作業になっていたため、一度目は聞いて内容を理解し、二度目にメモをするようにした。すぐに内容理解したものをメモにすることは難しいが、少しずつ練習を積み重ねていくことで、内容理解が深まり、メモもすっきりしてわかりやすくなっていった。実際に、メモをとったあと「このニュースはどんな内容を話されていた？」と聞くと、少し考えながらも聞き取ったニュースについての説明がしっかりとできていた。



・対象児の事後の変化

2年生

・以前は自分だけが理解できる表現で伝えようとし、担任である報告者がわからないからともう一度聞き直すと「もういい」と言って話さないことがあった。インタビューなどを通して、相手に伝えるためには自分だけがわかる表現ではいけないと実感したのか、こちらがわからない時に聞き返しても「それはこうで・・・」と言い換えたり、説明をもう一度したりと諦めずに伝えようと姿が見られるようになった。

6年生

・ニュースを聞いてメモをタブレットに入力していたが、3学期になってからノートに鉛筆でメモを取ってみたいという場面があった。タブレットでの入力よりも時間のかかる手書きを選んだことは、今後の日常生活での場面を想定してのことであった。実際にメモを取ってみて、漢字がすぐに書けなかったり、文字数も少なかったりとタブレットへの入力よりもメモの量は少なくなった。しかし、日常生活の場面を意識して取り組んでみようとする姿が生まれたことはとてもいい姿である。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

2年生

・インタビューの実践の部分でも述べたが、以前よりも伝えようとする力は伸びてきている。小学校入学の段階から指導をしているが、本人の中で伝えるための情報や語彙が少しずつ増えてきていることも要因として考えられる。

6年生

・思春期とも重なり、伝えようとすることに恥ずかしさも感じている場面が見られた。わかりやすく伝えるためには、情報を整理することが必要であると理解はしているので、ニュースを聞いてメモを取ることを通して学ぶことができた。

・エビデンス(具体的数値など)

2年生

・数値では出せないが、インタビュー中の質問を5つから4つに減らして臨機応変に対応することができた。

6年生

・45回メモを取ってきたので、内容が少しずつ変化してきている。量は最初よりも少なくなっているが、内容を絞

・その他のエピソードに挙げている交流学級での算数の授業で、他の子たちとのやりとりや発表の場面が見られたのは、説明したり聞いたりすることに対するの自信がついてきたのではないかと考えられる。

ってわかりやすくまとめることを意識している。報告者が質問しても、そのことに対して考えて答えることもできている。

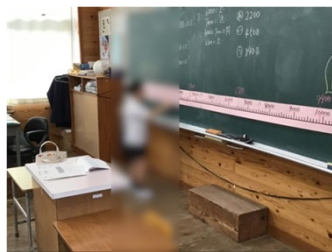
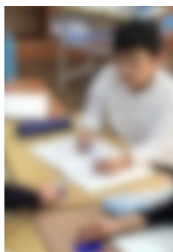


実施月	実施回数
4月	5回
5月	10回
6月	7回
7月	1回
9月	9回
10月	5回
11月	0回
12月	2回
1月	4回
2月	2回
合計	45回

・その他エピソード(画像などを含めて)

2年生

- ・2学期後半、3学期前半に交流学級で一緒に算数を行った。啓林館2年下単元は「1000より大きい数」と「分数」を一緒に学習した。
- ・報告者が交流学級で授業を行い、A児も一緒の内容に単元を通して参加した。
- ・普段は支援学級で当該学年の内容を1人で学習しているが、交流学級で一緒に学習を進めることで、ペアやグループでの話し合いをする場面が発生した。A児はグループでの活動に意欲的に参加し、話し合いの終了の時間になると、周りの子たちに「もう終わりだよ。」と終了を促す場面も見られた。



左) グループで話し合いをしているA児  
右) 発表しているA児

6年生

- ・2学期から交流学級での社会科の学習にも参加するようになり、板書をノートに写す量が以前よりも多くなった。初めのうちはうまく書けなかったと言っていたが、少しずつ書く量が多くなり、自分なりにノートに書き写すことができるようになってきた。板書を見て写すだけでなく、話を聞いて内容理解をした上で板書を写すことが必要なので、ニュースを聞いてメモを取ることが汎化された場面である。



また、発表する姿も見られ、事前の「自分の伝えたいことはあるが、自分だけが理解できる表現で伝えようとする。伝えたいことが相手に伝わりにくい。」という状況とは違うような場面も見受けられた。

・「分数」の単元の最後に欠席をしたので、支援学級で授業を行った。1人の場面と大勢の場面と違う環境で学習することで、「1人だと色々話せる部分もあるけど、考えを聞くことは2年生じゃないとできない」とそれぞれで学ぶことの良さをA児自身が実感していた。

